

令和1年 7月 8日

東員町議会 全議員研修会

議長 三宅 耕三 様

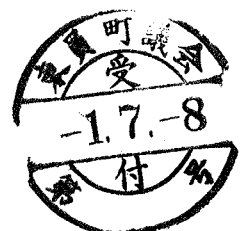
東員町議会

議員 水谷 喜和

## 研 修 報 告 書

研修期間	<u>令和1年 6月 27日 (木)</u> ～ <u>6月 28日 (金) 【 2日間】</u>
研修 (視察) 先	長野県軽井沢町議会 長野県川上村議会
目的 (テーマ等)	議会とまちづくりを語る会の手法及び現状について 通年議会を導入による議会活動について (軽井沢町) 中学校改築工事事業費と補助金 (川上村)
資料添付の有無	有 ・ (無)

※ 研修概要、内容、所感などは、次ページにご記入ください。



研修概要、内容、所感

軽井沢町議会

議会報告会開催の経過

① 実施までの経過

- ・平成 12 年に地方分権一括法が施行され、地方分権が推進されることを背景に、住民に開かれた議会を目指す方策を検討するため、議員定数問題の検討も含めた「議会改革検討特別委員会」を設置。
- ・その報告書の中で、町民が関心を寄せる議会づくりをめざすため、「住民懇談会を積極的に開催する」ことが検討項目に盛り込まれた。当該特別委員会では、「議員定数問題」についても検討しており、住民検討会として、JA・JC・観光協会・商工会・日赤奉仕団・女性ネットワークの方々や区長との懇談会を実施した。
- ・平成 18 年に議員運営委員会で、住民懇談会について先進視察を実施（岩手県住田町）
- ・平成 19 年 5 月、議長の指示により、議会運営委員会で議会報告会の実施について検討会に入る。
- ・平成 20 年 10 月、全員協議会で「議会報告会開催要領」が了承され、町内 3 会場において、初の報告会を開催。以後、報告会を 2 回開催している。

② 実施方法

- ・所管は議会運営委員会
  - 実施時期は、毎年 3 月及び 9 月定例月後に実施する。
  - 会場は、町内 30 地区を概ね小学校区の 3 地区に区分し、各班が 1 地区を担当。
  - 班編成は、議員を 5 人編成の 3 班に分け実施。出身地区は避けるよう配慮する。
  - 報告会は約 2 時間の予定で行い、共通のシナリオにより進行する。
  - 会場設営、司会進行、記録についてすべて議員が行う。
  - 議長は全会場に出席する。

③ 効果等について

- 町民が関心のある事項など直接感じることができる。
- 説明のための内容確認により、議案に対してさらに理解が深まる。
- 参加人数が少ないため、開催方法について再検討が必要。

↓

【議会報告会の名称変更】

- 「議会とまちづくりを語る会」とし、意見交換を主とした内容として実施することになる。平成 22 年 3 月 全員協議会
- 「議会とまちづくりを語る会」の実施。  
平成 22 年 6 月、平成 23 年 7 月は町内 3 か所。以後、年 2 回開催。

【開催要領の一部改正】

- 実情を照らし合わせて、より機能的・柔軟的に報告会を実施するために一部改正。

### 「通年議会制」の導入について

議会改革に取り組んでいる自治体の中には、議会改革の一つとして議会の活動能力を高めるために、通年議会制の導入或いは検討を進めている。議会の召集権は首長にあるため、首長が年4回の定例会を招集することが通例となっており、議会が主体的に議会を開く仕組みになっていない。

通年議会は、年1回の首長の招集で、議会議決で議長の権限で再開と休会を繰り返すことで、本会議、委員会を開催でき、議会運営の柔軟性・効率性を高めることができる。

「閉会中の期間」をなくすことで、チェック機能の充実、民意の反映や災害時の緊急対応に、議会の主体性、機動性を高めることができる。

通年議会の実施に伴い、執行機関の職員の議会対応時間の増、議員にも負担増が考えられ、課題となる。

### 川上村

「祖父母が植え、親が育てたカラマツで、孫が学ぶ新校舎」

#### 川上中学校の特徴

1. 川上村の唐松をふんだんに使い、村有林約37haから伐りだされた木材を、建物の構造、外装、内装に1,035 m<sup>3</sup>もの大量に使用している。
2. 建築材としての利用のみならず、生徒の机、椅子等の家具も川上産の唐松を使用し、教職員の机、図書館の閲覧机、会議テーブル、ランチルーム等には天然自松の練り付けが施されている。
3. エコスクールの認定を受け、文部科学省、NEDO、林野庁、長野県より、地域開紋施設の位置づけで国土交通省より夫々から補助を受けた複合多彩な施設であること。
4. 2005年の愛・地球博に出展されグローバルコモン2に展示されたオブジェやカナダ館で使用されたダグラスファーの寄贈を受け、生徒のみならず保育園やデイサービスに通うお年寄り等、村民の憩い場としても利用できる公園広場を整備している。
5. 村有林交換プロジェクトによる、大桑村の檜、根羽村の杉、そして本村の唐松が交流の証として、ランチルーム横に配置してあること。

#### 川上中学校改築工事事業費と補助金

本体工事費	1,386,722,682円
(内ランチルーム分)	(60,345,588円)
音楽室	67,466,121円
体育館(廊下含む)	351,699,197円
<b>事業費 計</b>	<b>1,805,888,000円</b>

## 補助額

安全・安心な学校づくり交付金+事務費	
安全・安心（共同調理）+事務費	
安全・安心な学校づくり交付金 計	686, 762, 000 円
公立学校施設整備国庫負担金+事務費	2, 403, 000 円
交付金+負担金 合計	689, 165, 000 円
木造公共施設整備事業	50, 200, 000 円
まちづくり交付金（体育館）	155, 000, 000 円
まちづくり交付金（音楽室）	29, 500, 000 円
新エネルギー（パッシブソーラー）	7, 717, 499 円
木の香る環境づくり推進事業	3, 216, 000 円
補助金合計	934, 000, 000 円

2000年頃より、各地の市町村議会において、開かれた議会を目指し、「住民との意見交換会」や「議会報告会」が実施されてきた。なかには、一度きり、数回の開催で頓挫している多くの議会もある。そんな中で、軽井沢議会では、議会報告会から「議会とまちづくりを語る会」と名称変更しても開催をつづけ、管内の各種団体と連携を取りながら「開かれた議会」への議会改革継続姿勢は見事なり。

通年議会の導入については、メリット・デメリットとその市町議会を取り巻く状況で大きな差異が生じる。通年議会でなくてはならないのか。今の定例会議会では不都合があるのか。継続検討とする。まずは、議会・議員各人の資質向上で町民付託に応えるべきと考える。

東員一中学校の移転は待ったなし。今回訪問視察した川上村中学校改築工事は約10年前で、18億円を超える事業費を費やしているが。上記の見事な施設事業区分で各種補助金、通常は1/3の補助金を1/2以上の金額を獲得し、中学校改築工事を終えている。村執行部の県・国への熱心な「働き掛け」が大きな効果、多額補助金の獲得につながっていること実感する。